

高岸税務会計事務所 ニュースレター

当税理士事務所は気軽に相談でき、親身に
相談にのる税務・財務のスペシャリストです

高岸税務会計事務所

〒569-0803 大阪府高槻市高槻町 9-19 カナブレ 202

電話：072-683-0230 FAX：072-683-0376

<http://www.gishitax.com/>

mail：info@gishitax.com

お気軽にお問合わせ下さい 072-683-0230



【コラム】 年明けから早くも三ヶ月。
「一月は往(い)ぬる、二月は逃げる、
三月は去る」とはよく言ったものです。
時間に追われているからなのか、それと
も毎日が充実している証でしょうか。願
わくば、少しずつでも前進しているがゆ
えの「時の早さ」であってほしいもので
すね。「歳月人を待たず」です。

【小規模企業共済加入を勧めたいのですが】

左官業を営むある個人事業主から「あと三年で第一線から退きたいと思っています。後継者は、身内ではないのですが従業員の一人を考えています。そこで後継者候補の従業員に対して小規模企業共済に加入するよう勧めたいと思うのですが可能でしょうか？」という質問がありました。身内でなくとも事業を継いでくれる人がいるということはとても心強く、また、その方への思いも格別でしょう。「小規模企業共済制度」とは、個人事業をやめられたとき、会社等の役員を退職したときなどの生活資金等をあらかじめ積み立てておく制度で、小規模企業共済法に基づき国が全額出資している、独立行政法人中小企業基盤整備機構が運営しているものです。これまで個人事業においては事業主にしか加入が認められておらず、その配偶者や後継者の方は加入できませんでした。しかし、平成二十三年一月一日からは一定の要件を満たせば、配偶者や後継者、親族以外の方も共同経営者として「個人事業主一人につき、「二人まで」」加入することができるようになりました。この共済制度のメリットは、共済金が「退職所得扱い」となること。また、掛金は毎月1000円〜7万円の範囲内で自由に選べ、「全額所得控除の対象」となることです。

今回のケースでは、共同経営者という形で要件を満たせば共済に加入することができま



【「何でもできる」ではなく「これだけは負けない!」】

名刺整理に悩むビジネスマンの注目を集めているキングジムの「ピットレック」。内臓カメラで名刺をスキャンし、画像を保存するデジタル名刺ホルダーで、最大約1万人分の名刺の持ち歩きが可能です。文字認識機能により会社名と氏名を登録でき、名前やキーワードによる整理、検索がこれ一台で完結します。名刺交換というアナログな商習慣を、多機能化する携帯電話やパソコンとは切り離し、本当に必要な「名刺の保存だけ」という役割に特化したセンスが秀逸です。



【今月の教えてキーワード：日銀短観】

日本銀行が景気の現状と先行きについて企業に直接アンケート調査をするもので、正式名称を「主要(全国)企業短期経済観測調査」という。サンプル数も回収率も相当に高く、景気の動向を占う上では最重要指標のひとつとされる。中でも最も注目されるのは、企業の収益を中心とした業況についての判断「業況判断DI」で、「良い」「さほど良くない」「悪い」の回答割合に企業の業況見通しが集約され、株価に及ぼす影響も大きい。

【ウサギが負けたその理由】

兎年の今年、「ウサギのようにぴょんぴょん跳ねて」のたとえをよく耳にします。元気よく飛び跳ねるのはいいけれど、『ウサギとカメ』のお話では競争の途中で居眠りをしたウサギがカメに負けるという結末でした。

「どうしてウサギはカメに負けたと思いますか？」五十代のある男性経営者が、たまたま同席していた二人に訊いたそうです。「ウサギの怠慢だと思います」と答えたのはパート勤務の四十代主婦。「カメはコツコツ努力したから」と答えたのは飲食店を営む三十代の男性。質問をした男性経営者の解釈は、二人とはまったく違うものだったようです。「私はね、カメの目的が“ゴール”だったからだと思うんです。ウサギの目的は「カメ」だった。カメを追い抜くことがウサギの目的だったからウサギはカメを見ていた。だが一方のカメは、最初からゴールすることしか考えていなかった。だからカメの目的は「ウサギ」じゃなくて「ゴール」だった。たまたまウサギに勝ったけれど、カメはただひたすらにゴールを目指していただけでウサギのことは見ていない。ウサギはカメに負けて、カメは自分に勝った。横を見て競争していたウサギと、常に目的意識を持って前を見ていたカメの差だと思うんですよ……。



『ウサギとカメ』はよくたとえ話に使われます。いくらウサギが俊足でも途中で努力を怠れば鈍足のカメに追い抜かれる。鈍足のカメでも努力を続ければ俊足のウサギに勝てる。これが一般的なたとえ話でしょう。物語の解釈に正解はありません。とはいえ、解釈にはその人の人生観のようなものが投影されます。「ウサギの怠慢」と答えた女性は「カメの目的はゴールだった」という解釈を聞き、今の自分は現状維持のための努力はしていても前を向いていないと思ったそうです。商売の目的が明確であれば、ウサギのようにぴょんぴょん跳ねてもカメのようにゆっくりじっくり進んでも、いずれはちゃんとゴールに到着します。しっかりと前を見て行きたいものですね。

今を生きる
先人の言葉

努力する人は希望と語り、負ける人は不満と語る

日本を代表する小説家であり、文化勲章受章者でもある井上靖の言葉。まず希望ありきで努力するのではなく、頑張っている最中に希望は湧き出てくるものである。



サラリーマン妻
川柳
戻りだしたしに

コツコツと貯めたポイント
期限切れ
（まるで人生のごとく）